

【テーマ】 **世界の国**
 【対象】 小学校 5・6 年生
 【所要時間】 20分

【紹介する本】

	書名	著者名	出版社	出版年
1	読んで見て楽しむ世界地図帳		学研プラス	2016
2	くらべてみよう！日本と世界の食べ物と文化	石毛直道／監修 朝倉敏夫 阿良田麻里子／著	講談社	2004
3	学校の世界地図	藤田千枝／編 小川真理子／著	大月書店	2004
4	小公女	フランシス・ホジソン・バーネット／作 脇明子／訳	岩波書店	2012
5	イクバルの闘い	フランチェスコ・ダダモ／作 荒瀬ゆみこ／訳	鈴木出版	2004

【シナリオ】

●導入

世界にはいろいろな国があります。みなさんが住んでいる日本もその中のひとつです。「世界の国」というテーマで本を紹介します。

1 『読んで見て楽しむ世界地図帳』

p.8～9を見せる

世界地図です。面積の大きい国も小さい国もありますね。日本はここです。地球上の国々の中では小さい国に入ります。では今、世界にいくつの国があるか知っていますか？（答えを聞く）

p.77上段の説明を読む 【世界の国の数は、外務省が承認している国195に国連加盟国である朝鮮民主主義人民共和国と日本を加えて197。】

（これは、2016年の数字です。外務省が新たに国を承認すれば、増える可能性もあります。）

p.20を見せる

この本で国旗を調べることができます。

p.62～63を見せる

このページの色分けは人口の違いです。色の濃い「中華人民共和国」と「インド」は人口が5億人以上いる国ということが分かります。このように国ごとの情報がとてもよく分かる本です。インドというと、みなさん何を思い浮かべますか？カレーは有名ですね？それでは食文化について注目してみましよう。

2 『くらべてみよう！日本と世界の食べ物と文化』

p.40～41を見せ、読む 【世界の伝統的主作物の分布 今のように、世界のどこでも～(中略)

～おもな作物の分布を見てみよう。】

米、イモ類・バナナ、雑穀、トウモロコシ、麦類、ナツメヤシの6つが主作物となっています。日本はもちろん主に米を作ってきました。アメリカはトウモロコシを主に作り、ヨーロッパは麦類を作っています。このように主作物が違えば、食べる物が変わってきます。米はどうやって食べるか分かりますね？では、麦はどうやって食べるか分かりますか？(答えを聞く) そうです。パンにしたり、パスタやピザも麦を粉にしたものから作られます。他の作物をどうやって食べるかはこの本で調べてみてください。

次に、食べ方の違いを見てみましょう。

p.134を読む 【世界の食べ方には、大きく分けると、はして食べる、ナイフ・フォーク・スプーンで食べる、手で食べる、の3つの方法がある。～(中略)～スプーンなどの金属の味がすることもなくて、おいしいんだ。】

そして、食べる道具が違えば、食べるための礼儀作法も違ってきます。日本とどう違うかもこの本で知ることができます。みなさんは学校の給食のおかずやご飯を直接手で食べることはほとんどないと思いますが、世界のどこかの学校では、昼食を手で食べている人もいるかもしれませんね。それでは、世界の学校について見てみましょう。

3 『学校の世界地図』

表紙を見せる

この『学校の世界地図』では世界の国の様々な学校事情がわかります。

p.26を見せる

このページでは世界の学校での昼食の様子を知ることができます。日本では給食を教室で一斉にとりませんが、世界的に見るとそのような国はむしろ少ないようです。国によって、お弁当を持ってきたり、売店で買ったり、一旦家に帰って食べたりと様々です。驚くのは、学校でおやつを食べる国がたくさんあること！うらやましいですか？

しかし、その一方でこんな状況もあります。

p.26～27を見せながら一部読む 【飢えに苦しむ国では、給食はことに大切だ。一日のうち給食しか食べられない子もいる。～(中略)～WFP(世界食糧計画)では、世界64カ国で学校給食を実施してきた。】

日本では学校も給食も、あつて当たり前になっていますが、世界の子どもの7人に1人は学校に行っていない。そのほか、学校で1年に何時間くらい勉強しているのか、どんな勉強をしているのかななどもこの本を読むとわかります。日本と他の国を比べてみましょう。

世界の学校には日本と違うことがあると分かったところで、次に紹介するのはイギリスの寄宿学校が舞台のお話です。

4 『小公女』

表紙を見せる

この女の子が主人公のセーラです。どんな女の子に見えますか？(意見を聞く) 素敵なドレスを着て、堂々としていますね？

セーラの父のクルー大尉は、イギリスの支配下にあったインドで類をみないお金持ちでした。母はセーラを生んで亡くなりましたがフランス人でした。セーラはインドで生まれ育ち、7歳になった時、インドから父親に連れてこられ、寄宿学校に預けられました。

p.18 8行目～12行目を読む 【そこにずらりと並んでいたのは、どれを見ても瓜二つの～(中

略) ～ミス・ミンチン精華女子学院】

ミンチン精華女子学院では、父親の財力により特別寄宿生となり何不自由のない学校生活を送っていましたが、父親が事業の失敗がもとで亡くなり、孤児になったセーラは、学校で下働きとして働き使われます。朝から晩まで働かされ、勉強は仕事が終わった後に自分で本を読み知識を得るという生活でしたが、気高い心と誇りを忘れず過ごしました。

セーラは想像力でつらい境遇を乗り越えましたが、作者のバーネットも小さい頃から想像力が豊かでお話を創るのが好きな子どもでした。そして、比較的裕福な暮らしから、かなり貧しい暮らしを経験したその境遇の変化は、『小公女』に反映されているようです。

このお話は19世紀のイギリスが舞台ですが、その頃の日本は江戸時代から明治時代です。その頃の日本の学校について調べるのも面白いかもしれません。

さて、セーラは学校で下働きなどさせられ、つらい思いをしていましたが、「これって、昔の話だからだよ」と思った人はいませんか？

次に紹介するのは現代のパキスタンの少年の物語です。

5 『イクバルの闘い』

表紙を見せる

この本は実在したイクバル・マシーという少年が主人公です。パキスタンのじゅうたん工房では、両親の借金のかたに売られた子どもたちが、朝から晩まで奴隷のように働かされています。イクバルは、そんな子どもたちを救うために立ち上がります。今の日本では子どもが売られたり、無理やり働かせる児童労働もありますが、世界中には国が貧しいことにより、子どもを物のように扱い、教育を受けさせない国もあります。無力と思われる子どもでも自由を手に入れるためにどう行動するか。世界では何が起きているかを考える、読み応えのある一冊です。ぜひ挑戦してみてください。

●まとめ

国が違えば、暮らしも習慣も違うということがわかる本を紹介しました。今日紹介した本は図書館にありますので、手に取ってみてください。

【その他の本】 こちらの本もおすすめです。また、ご自身で追加・差し替えをするなど工夫してみましょう。

- ・『世界の料理』サカイ優佳子・田平恵美／編 ポプラ社 2007年
- ・『身近に学ぶ国際理解 世界を知って日本を知ろう⑤ 遊びと勉強』市川俊男／発行 学習研修所 2002年
- ・『おいぼれミック』バリ・ライ／著 あすなろ書房 2015年
- ・『お話きかせてクリストフ』ニキ・コーンウェル／作 渋谷弘子／訳 中山成子／絵 文研出版 2014年

山梨県立図書館 2018.3